

情報通信審議会 情報通信技術分科会 ITU部会
地上業務委員会(第39回) 議事概要 (案)

1 開催日時

平成28年9月14日(水) 14:00～16:15

2 場所

合同庁舎2号館 総務省10階 共用10会議室

3 出席者(敬称略、順不同)

[専門委員]

三瓶 政一(主査)、足立 朋子、飯塚 留美、小笠原 守、小川 博世、上村 治、小泉 善子、阪田 史郎、佐藤 孝平、田北 順二、橋本 明、松永 彰

[関係者]

新(NTTドコモ)、アナス(NTTドコモ)、石川(日立製作所)、表(ソフトバンク)、今田(KDDI)、北尾(NTTドコモ)、碓(NTTドコモ)、本多(エリクソンジャパン)

[事務局]

(移動通信課新世代移動通信システム推進室) 山内、小橋、武田
(電波政策課国際周波数政策室) 菅田

4 配付資料

資料地-39-1	地上業務委員会(第38回)議事要旨(案)
資料地-39-2	ITU-R SG5 WP5D第24回会合報告書(案)
資料地-39-3	ITU-R SG5 WP5D第25回会合への日本寄与文書(案)
資料地-39-4	ITU-R SG5 WP5D第25回会合への対処方針(案)
参考資料1	ITU-R SG5 WP5D第25回会合の開催案内
参考資料2	ITU-R SG5 WP5D第25回会合の日本代表団一覧
参考資料3	地上業務委員会構成員名簿
参考資料4	電波政策2020懇談会における検討結果

5 議事概要

(2) 地上業務委員会（第38回）の議事要旨について

【資料地-39-1】

地上業務委員会（第38回）の議事要旨について、事務局から説明があった。

(3) ITU-R SG5 WP5D会合報告について

【資料地-39-2】

事務局から、ITU-R SG5関連会合報告後、以下のコメント及び質疑応答があった。

三瓶主査 3.4-3.6GHzの共用検討は終了することになったとあるが、どのような経緯か。

研氏 WRC-15で3.4-3.6 GHzが第二地域で特定されたこともあり、技術的な問題がなくなったもの。

三瓶主査 第二地域は特定されたのか。

研氏 第一地域は、一部の国の特定だったものが地域特定になった。また、第二地域第三地域は一部の国でIMT特定された。

三瓶主査 完成で無く、終了というのはどういうことか。

研氏 前会期において衛星とIMTで調整してきたものだが、前回会合時点で折り合いが付かなかったこと、特定も行われたということで、研究を終了することとなった。

(5) ITU-R SG5 WP5D 第25回会合への日本寄与文書（案）について

【資料地-39-3-1】

NTTドコモ 新氏から「IMT-2020開発に関わる回章5/LCCE/59への追補版2草案の提案」について説明があり、以下の質疑応答の後、承認された。

三瓶主査 このステップ2、ステップ6の調整現状はどうか。

新氏 前回まともならず、継続議論となっている。

【資料地-39-3-2】

日立製作所 石川氏から「報告ITU-R M.[IMT-2020.TECH PERF REQ]に含まれる技術性能要求条件項目に対する要求値の提案」について説明があり、以下の質疑応答の後、承認された。

三瓶主査 この数値は3 GPPなどで議論されて、当たりをつけた数字か。

石川氏 3 GPPで議論されている数値、若しくはARIBの20-bアドホックやITU-R勧告M.2083「IMTビジョン」を参照している。一部の数値については、条件を付して提案を行っている。

【資料地-39-3-3】

エリクソン 本多氏から「技術性能条件と使用シナリオに関連したテスト環境の対応について」について説明があり、以下の質疑応答の後、承認された。

三瓶主査 リライアビリティで10の-5乗 (within 1 msec) と書かれているが何のことか。

本多氏 デレイが1 msecという意味。

三瓶主査 これだと表現が分かりづらい。

本多氏 修正させていただく。

三瓶主査 [5msec]の状況はどうか。

本多氏 5msの提案をしているのが韓国で、日本は [] 入り、中国が検討中で合意が取れていない。調整中です。

三瓶主査 この値は妥当か。3GPPが厳しい値を出してきている。

石川氏 URLLCでは1 msecとするなど、要求値を変える見込み。まずは、ビジョン勧告の要求値を着実に達成することを提案したい。

【資料地-39-3-4】

NTTドコモ アナス氏から「新報告案ITU-R M.[IMT-2020.EVAL]のための評価手法及び構成」について説明があり、以下の質疑応答の後、承認された。

橋本構成員 Attachment1のテキストのうち、 [] の部分はどういう意味か？

アナス氏 2つの可能な選択肢を示したもの。

【資料地-39-3-5】

NTTドコモ 新氏から「Report ITU-R M.[IMT-2020.EVAL]における追加のテスト環境」について説明があり、以下の質疑応答の後、承認された。

三瓶主査 ハイスピードの場合、500km/hは分かるが、RF構成を取るかどうか、等の条件は含めないのか。

新氏 そこも含めて評価環境としては定義する必要があるが、条件は別の寄書で提案している。

【資料地-39-3-6】

ソフトバンク 表氏から「IMT-2020の評価のためのチャンネルモデル～6GHz以下のエクステンションモジュール～」について説明があり、以下の質疑応答の後、承認された。

橋本構成員 文書の末尾と途中にレファレンスがあるが、一緒に出来ないのか。

表氏 途中にあるものは、現在の文書に既に記載のあるもの。後ろのものがエクステンションモジュールの追加に必要なレファレンスとなっている。

橋本構成員 ポリユームのある場合はアネックスごとにレファレンスをつけているが、セクション毎にレファレンスを付ける例は聞いたことがない。また、レファレンスは、本文中に参照番号をつけリンクさせる。会議場で必要に応じて対処していただきたい。

【資料地-39-3-7】

NTTドコモ 北尾氏から「新報告案ITU-R M.[IMT-2020.EVAL]のためのチャネルモデルの作成」について説明があり、特段の質疑なく承認された。

【資料地-39-3-8】

エリクソン 本多氏から「暫定新報告案ITU-R M.[IMT-2020.SUBMISSION]に向けた作業文書の修正提案」について説明があり、以下の質疑応答の後、承認された。

橋本構成員 P4に「WRC-12」と記載があるが、脚注に入ったのはWRC-15であったように記憶している。

本多氏 本提案の部分ではなく、既に作業文書化されているものだが、確認する。

【資料地-39-3-9】

エリクソン 本多氏から「PDNレポート M.[IMT-2020 SUBMISSION]に取り込まれるオプション項目」について説明があり、以下の質疑応答の後、承認された。

三瓶主査 この各項目だが、5Gの場合、無線インターフェースは多数用意されるだろう。この全てを書くと言うことか。提案された無線方式はこの全てについて記載をしなければならないのか。

本多氏 基本的にはそうである。ただ、これはIMT-Advancedをもとに作っているものであり、3つの利用シナリオに分けていない。まだそのような議論が起きていない状況。

石川氏 記述様式（description templete）は、該当しない項目は書かなくてもよい。

三瓶主査 該当しないかどうかの判断が主観的にならないか。

本多氏 技術性能要件ではなく必須の記述項目ではないし、該当するテスト環境を書く欄もあるが、会合で議論が必要かも知れない。

【資料地-39-3-10】

日立 石川氏から「IMT-2020/2文書(IMT-2020 Process)に関する修正提案」について説明があり、以下の質疑応答の後、承認された。

三瓶主査 一つのRITが少なくとも3つのテスト環境を満たすとあるが、センシングのようなmMTCは1つの環境しか満たさないのではないか。

石川氏 一つの環境しか満たさないものも、ステップ7では全ての環境を満たさなければならなくなるため、どこかの段階で他のインターフェースと連携しなければならない。提案段階でmMTCしか満たさないものでもeMBBと連携できる機能を満たすことを求めたいと考えている。

【資料地-39-3-11】

NTTドコモ 𨮞氏から「勧告ITU-R M.1036-5改訂に向けた作業文書の修正提案」について説明があり、以下の質疑応答の後、承認された。

橋本構成員 提案自体は前回議論されなかったもので、見直して再提案ということだな。英文、introduction 最後の out input contributionとあるが、これはourではないか。

𨮞氏 そのとおり。修正する。

橋本構成員 今回はセクション3の提案だな。後のセクションはリナンバーされるのか。

𨮞氏 前々回会合でリナンバーはされている。

【資料地-39-3-12】

NTTドコモ 𨮞氏から「勧告ITU-R M.1036に関する見解」について説明があり、以下の質疑応答の後、承認された。

橋本構成員 勧告M.1036の改定案について、タイトルはVIEWSになっているが、提案は具体的なものになっているので、反映されるよう対応して欲しい。少数国のみ特定された周波数帯についてまでアレンジメントを作る必要があるのかという点について議論があったのだろう。現在周波数を利用している当事国が何を提案してくるのかというのがポイントで、あとからその周波数帯を日本が使うことになった場合、当事国に任せていいのかということ。

(2) のところ、一般論ではなくsome countriesの話のはず。この内容を反映すべき。

𨮞氏 承知した。

【資料地-39-3-13】

KDDI 今田氏から「暫定新勧告案ITU-R M.[IMT.MODEL]の修正提案」について説明があり、以下の質疑応答の後、承認された。

足立構成員 英文のテーブル2、ルーラル、サブアーバン、アーバン、と来て最後にインドアがあるが、スモールカバレッジのインドアとはどういう意味で

記載されているものか。

- 今田氏 展開モデルとしてはインドアを適用するということである。
- 橋本構成員 今回で勧告案にしようということで、だいが形になってきた。最後になるかも知れないので、形式的なことだが、JTGの最終議長報告レファレンスがついているが、これはレポートとして合意されなかったものである。勧告のレファレンスに承認されなかった文書を引いてくることはあまりないので記載を直して欲しい。
- またRRを参照しているが、普通は本文に具体的にRRのどこを引いてきているのかを記載する。
- 今田氏 日本提案箇所ではないが、会合ではこの点、明確になるよう対処する。

【資料地-39-3-14】

NTTドコモ 剛氏から「WRC-19議題9.1.2の1452-1492MHzのIMT/BSS共用検討に関する提案」について説明があり、以下の質疑応答の後、承認された。

- 橋本構成員 これは4Aでも話題になり、4Aからも寄与文書を出すことになったものである。in other countryと記載を入れるのであればdifferent countryは冗長ではないか。また、2つの国が影響を受けることはまずないため、otherではなくanotherだろう。
- 剛氏 冗長な表現の部分は修正したい。

【資料地-39-3-15】

NTTドコモ 剛氏から「2.1GHz帯の地上IMTとIMT衛星コンポーネントの共存検討に関する暫定新勧告/レポートに向けた作業文書の修正提案」について説明があり、特段の質疑なく承認された。

【資料地-39-3-16】

NTTドコモ 剛氏から「WRC-19議題1.13の共用および両立性検討のためのIMT-2020運用特性に関する提案」について説明があり、以下の質疑応答の後、承認された。

- 三瓶主査 セル半径として提案されている値は、幅の狭いビームで飛ばさないと飛ばない距離。ビーム幅についての考え方は各国あると思うが、ここに書いている数値は、ドコモの実験結果より少し控え目なくらい。300m飛ばしたいというのはいいが、指向性が高くなる。そこに対して他国から意見は出ると思われるか。
- 剛氏 ビーム幅は考慮していない。Attachment2に示したリンクバジェット例では、マッシュマイモアンテナの評価として提案しているもの。コスト増との兼ね合いも含めて提案しており、各国との合意も見込まれる値で

あると認識。

【資料地-39-3-17】

NTTドコモ 新氏から「報告ITU-R M.[IMT-2020.EVAL]のための評価手法に関する考察」について説明があり、特段の質疑なく承認された。

【資料地-39-3-18】

NTTドコモ 新氏から「TG5/1へのリエゾン文書案に向けた周波数需要に関する作業文書の修正提案」について説明があり、以下の質疑応答の後、承認された。

三瓶主査 周波数需要というのは、何を想定して記載しているのか。

新氏 24GHzより上を想定している。eMBBがメインだろうという考えの上で記載している。

(6) ITU-R SG5 関連会合への対処方針案について

【資料地-39-4】

事務局よりITU-R SG5関連会合への対処方針(案)について説明が行われ、承認された。

(7) その他

事務局より参考資料の説明があった。

本日の審議を経て、修正の必要がある寄与文書については、9月16日(金)をめどに事務局に提出することになった。

また、承認された寄与文書について、大きく主旨の変更がない限りは、文書案の変更の可能性はある旨、事務局から了承を求め、承認された。

外国寄与文書の対応については、日本代表団を中心に外国寄与文書審議表を作成し、対処に用いることとする旨説明があり、承認された。

以上